

平成25年度 学校評価自己評価表( 中間 ・ 最終 )

経営理念	【ミッション】(学校の使命)					【ビジョン】(将来の学校像)							
	「夢と笑顔と志」を合言葉に、知・徳・体の調和がとれた、ふるさと浅原を愛する児童を育てる。					浅原の四季を実感し、豊かに生活することのできる児童を育成することにより、ふるさと浅原を愛し、誇りに思い、将来にわたって浅原に生まれ、育ち、住んでよかったと心から思える、地域に根ざした信頼される学校を目指す。							
評価計画						自己評価				学校関係者評価		改善計画	
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	成果指標	担当	最終目標値	達成値		達成度	評価	コメント	改善策		
						中間	最終						
確かな学力	基礎・基本を重視した学力の定着と向上	思考力・判断力・表現力育成のための授業改善を図る	聞く力を付ける	・聞き取りテストを実施して、児童の聞く力を評価する。 ・キーワードを選択でき、内容の要約ができる。	教務	聞き取りテストで85%以上の正答率を取る。	B	3.0	80%	B	・勉強は楽しくやることが大切だと思う。 ・聞く力を付けるためには、朗読がよいのではないかと思う。 ・先生方にはよく指導してもらっている。 ・学方面で問題があるとは思っていない。	・お話朝会の聞き取りテストを今後も続けて、ねばり強く指導する。 ・学年実態に合った指導の大切さを自覚して今後も授業改善に努めたい。 ・廿日市市学力定着状況調査に向けてこれまでの学習を振り返り、課題となる点を繰り返し練習して定着を図る。理科については県平均も含めて低い結果となった。基本的な内容の定着を図る指導を徹底する。	
			言語活動の充実	・「基礎・基本」定着状況調査のすべての教科で「通過率が60%以上の児童の割合」		「基礎・基本」定着状況調査テストで「通過率が60%以上の児童の割合」が90%の正答率を取る。	B	3.4	88%				B
			ノート指導	・ノート指導のマニュアルをもとに思考力・判断力・表現力をつける。(自己評価カードをもとに)		ノートの自己評価の達成率が85%をとる。	C	3.4	88%				B
	特別支援教育の充実	集中しやすい学習環境	①学習環境強化週間を設け、休前に次時の学習の準備を済ませる指導を行う。 ②月初めに行事・学習予定を掲示する。	特支	①自己評価、②教室、児童玄関への掲示、ともに達成率85%以上。	B	3.2	84%	B	・さいきつノートを活用しての指導やふり返りを取り入れる。 ・全児童、職員で確認しやすい場所への掲示、朝会等でのさらなる活用を考える。			
豊かな心	学校環境整備を通じた豊かな心づくり	道徳の時間の充実と実践化	心のノートや心のつがやきを生かした実践	・年1回の道徳授業の公開をし、保護者とともに道徳性を考える。 ・自作資料・地域教材を題材に授業を年1回行い、郷土への愛着を持つ。	道徳	・年1回の公開の道徳授業を行う。 ・自作資料が地域教材の資料をもとに授業を年1回行う。	C	4.0	100%	A	・校訓を毎日復唱していくことで大切にしなければならぬことが身に付くのではないかと。 ・トイレ掃除やあいさつ言葉を継続していくことが大切だと思う。 ・上級生が下級生をやさしくいたわっている姿が見られる。	・3学期に保護者対象の道徳授業を実施する。その際、地域教材の資料を自作することで、共同体験から意見を出し、よりよい価値に気づかせることを保護者にも実感してもらおう。そして日々の道徳の時間や生活での話題とする中で、道徳性を培うようにしたい。	
		読書習慣の定着・向上	冊数・ページ数の目標(個人・学級)	年間50冊以上の読書をする。家庭での読書習慣を身に付ける。	国語	・年間50冊以上の読書をする児童が85%以上になる。 ・週1回読書調査を行い、85%が読書をする。	B	3.4	88%	B	・どの子もよく読書をしている。 ・校内のすみずみまで掃除が行き届き、豊かな心が育っていると思う。 ・道徳の授業参観があり、保護者対象の模擬授業もあってよかったと思う。 ・校庭でのにぎやかな声が聞こえる。活発に動くことで体力がつくと思う。 ・浅原小学校の給食は質がよいと思う。子どもがおいしいと言っている。	・50冊以上達成した児童には、より興味を上げていけるようにしたい。ゲストティチャーからの本の紹介で、より読書が好きになる児童も増えたことをきっかけにし、朝読書や給食準備時間での図書室の利用、土井文庫の活用など、図書に親しむ時間を継続していく。また、課題図書や教科書を参考にし、学年に合った図書を紹介していく。	
健やかな体	たくましくしなやかな心と体づくり	体力づくりの推進	新体力テスト課題項目の向上・改善	・シャトルラン・握力・ボール投げの能力が高まる。 ・グッドモーニングラン、体育の授業などに意欲的に筋力・持久力・投力の内容を取り入れる。	体育	シャトルラン、握力、ボール投げのテスト数値を県平均より上回る。	B	3.0	80%	B	・シャトルランについては、マラソン大会や地域での陸上大会に参加し、好成績を上げたことをきっかけに持久力は付いてきた。継続してトレーニングを長い時間行うことも効果的である。・握力については、グリップなどの器具を持たせ継続的に握力運動を行い、その使用方法を児童・保護者に伝え、進んで取り組むようにした。継続して実施させたい。 ・ボール投げについては、準備運動でボール運動を取り入れる。	・アジストカードの内容を今後も検討・修正し、聴き取りも行う。 ・今後も栄養士さん・地域の方との連携・保健便りでの啓発を進める。	
		食に関する指導の充実	食に関する授業等を通して食生活の改善を図る	・食に関するアンケートの自己評価で児童の満足度を80%以上にする。	保健主事	満足度80%以上の児童を全校の85%以上の人数にする。	A	4.0	100%	A			
信頼される学校	地域の特色を生かした取組の推進	伝統文化教育の充実	茶道学習の充実・発展	・探究的な茶道学習に取り組む。	教務	茶道学習の内容のポートフォリオに全員がまとめる。	C	3.2	84%	B	・地域の特色である、茶道を毎日の生活の中に鳥し手ほしい。 ・伝統の上田宗箇流茶道学習は今後も継続してほしい。 ・先生方にはよく指導してもらっている。 ・学習発表会で実施した音楽劇「上田宗箇物語」を地域の行事でも発表する機会があるとよい。	・茶道学習を学習発表会で表現した内容は地域の方からも評価していただいた。児童の振り返りにも伝統をこれからも引き継ぎたいというコメントがよく見られた。学年末にまとめさせたい。	
		ゲストティーチャーの招聘や地域とのつながりを充実	地域に根ざした教育活動の開拓・充実(道徳・環境・生活・理科・社会等)	様々な教育活動の中にゲストティーチャーの活用できる内容を検討して効果的な招聘を行う。	教務	道徳・環境・生活・理科・社会の各教科領域で各学年年間2回ティーチャーを招聘する。	C	3.6	92%	A			
小中連携	9年間を見通した小中一貫教育の推進	家庭学習に自ら取り組み児童生徒の育成	家庭学習定着のための基本的な生活習慣づくり(ひろしま学びのサイクルを生かした取組)	・けんこういきいき家庭学習カードをもとに家庭学習習慣を身に付ける。 ・自己評価アンケートの実施	教務	けんこういきいき家庭学習カードの学習時間が各学年×10分を上回る児童が85%以上とする。	B	3.5	90%	A	・いろいろな取組を保護者や児童がアイデアを出し合い、期間を決めて集中的に取組を重ねてみるとよい。その中で、続けて取り組めるものが見付かるのではないかと。 ・概ねよいと感じている。	・第2回家庭学習カードの学習時間を集計すると全員目標を達成していた。今後は学年の実態に合った取組を計画的に実施して第3回目の家庭学習カードでも高い評価となるように指導していきたい。	
		マナーや規範意識の育成	挨拶・返事・掃除・はきものそろえの徹底を図る(礼儀日本一を目指す)	・さいきつノートに沿った挨拶・返事・無言掃除・はきものそろえをする。 ・自己評価アンケートの実施	生徒指導	90%の児童が挨拶・返事・無言掃除・はきものそろえをする。	C	3.0	80%	B	・どこで出会っても元気にあいさつができていて、生活態度もしっかりしていると思う。 ・学校での様子や家庭での様子がちがう。同じ項目のアンケートでも差が出ている。この点を今後の課題として取り組んでいくとよい。	・「いつでも、どこでも、誰にでも、自分からあいさつ」が元氣よくできるような声をかける。 ・返事やあいさつなど、手本となる児童を全体の場で評価する。 ・下学年に掃除の仕方を教える期間を設ける。	

【評価】 A:100≧(目標達成) B:80≧(ほぼ達成)<100 C:60≧(もう少し)<80 D:(できていない)<60